

JTA テニスルールブック 2022 の変更事項

<ルール オブ テニス>

セット中のスコア(規則 6,7)(P31)

2)ショートセット タイブレイク

2021) ショートセットのみで試合を行う場合、ショートセット タイブレイク方式を採用することが出来る。最初に 5 ポイント、4 オールになった場合はディサイディングポイントを取ったプレーヤー・チームが、そのゲームとセットを獲得する。サービスの順番と回数は大会主催者に決定権がある。プレーヤー・チームは最初の 4 ポイントをプレーした後のみ、エンドを交代する。



2022) ショートセットのみで試合を行う場合、ショートセットタイブレイク方式(5P 先取)を採用することができる。これは、ファイナルセットもショートセット(4ゲーム)で行う場合を指し、マッチタイブレイクの場合は含まれません。最初に5ポイント、4ポイントオールになった場合は、ディサイディングポイントを取ったプレーヤー・チームがそのゲームとセットを獲得する。プレーヤー・チームは最初の4ポイントをプレーした後のみ、エンド交代する(1回だけ)。※JTA テニスルールブック P31 ショートセットタイブレイク
※JTA の HP 内テニスルール Q&A を参照

<試合で起こる Q&A>

Q7)携帯電話、CD プレーヤーの利用(P55)

2021) プレーヤーが、トランシーバー、携帯電話、CD プレーヤーなどを、試合中に使用することはできない。偶発的に携帯電話が鳴った場合は、電源を切るか、マナーモードに再設定し、プレーの妨げにならないようにする。



2022) プレー中いかなる電子機器も使用することができない。スマートウォッチは電源が切られた状態でも試合中の着用は認められない。

Q22)ノーアド方式について(P59-60)

ノーアドの試合では、レシーバーはコートの右サイドか左サイドのどちらかでレシーブするかを速やかに選択しなければならない。一度選択した後に変更することはできない。

2021) ②誤りに気がついたときアドバンテージ A なら、もう 1 ポイントプレーする。

a) 次に、A が取ればゲーム A で終了する。

b) 次に B が取ればデユースになり、ここでノーアドに切り換える。



2022) ②デユースの後、ノーアドでプレーすべき所をレシーバーズチョイスなしでデユースコートから1ポイントをプレーし間違いに気が付いた場合は、その結果をそのまま成立させ、そのゲームは終了したものとする。

<トイレットブレイクと着替え>

着替え(P140)

2021) 着替えはセットブレイク時、女子のみコートを離れることが許されるが、男子は着替えのためにコートを離れることはできない。トイレットブレイクの時間は

男女とも理にかなった時間内とする。



2022) 着替えはセットブレイク時、女子はトイレブレイクを使ってコートを離れることが許されるが、**男子はコート上での着替えに不都合がある場合に限りコート**を離れることができる。トイレブレイクの時間は理にかなった時間内とする。

<コード オブ コンダクト>

ロゴの規定(ショーツ・スカート・パンツ)JTA 女子服装規定(P148)

2021) 13 cm²以内の製造業者ロゴを前後どこにでも 2 つ、または 26 cm²以内の製造業者ロゴを 1 つ。レギングス及びコンプレッションショーツには、13 cm²以内の製造業者ロゴを 1 つ。文字を入れても良い。



2022) 13 cm²以内の製造業者ロゴを前後どこにでも 2 つ、または 26 cm²以内の製造業者ロゴを 1 つ。**レギングスには 13 cm²以内の製造業者ロゴを 1 つ。太ももの中央よりも長い丈のレギングスは、スカートやパンツ無しでの着用可。その場合は、13 cm²以内の製造業者ロゴを 2 つまたは、26 cm²以内の製造業者ロゴを 1 つ。**

ロゴの規定(帽子・ヘッドバンド・リストバンド)JTA 女子服装規定(P148)

2021) リストバンドは 19.5 cm²以内の製造業者ロゴを 1 つ。帽子・ヘッドバンドは 19.5 cm²以内の製造業者ロゴを 前に 1 つ。19.5 cm²以内の商業ロゴを頭部の側面に 1 つ。

※この文字が無くなる



2022) リストバンドは 19.5 cm²以内の製造業者ロゴを 1 つ。**帽子・ヘッドバンドは 19.5 cm²以内の製造業者ロゴを 1 つ。**19.5 cm²以内の商業ロゴを頭部の側面に 1 つ。

16) コーチング及びコーチ (Coaching and Coaches)

2021) チーム対抗戦においては、エンドチェンジの 90 秒間、セットブレイクの 120 秒間には、ベンチにいるキャプテンからコーチングを受けることができ、キャプテンに悪質なコード違反があった場合は、1 回目、2 回目は警告、3 回目は退場となる。退場の場合、その試合の代理は認められない。



2022) チーム対抗戦においては、エンドチェンジの 90 秒間、セットブレイクの 120 秒間には、**コート上のベンチにいる**キャプテンからコーチングを受けることができ、キャプテンに悪質なコード違反があった場合は、1 回目、2 回目は警告、3 回目は退場となる。退場の場合、その試合の代理は認められない。

<チェアアンパイアのアナウンス>

6) デュースのあとのアナウンス

2021) 「アドバンテージ、(選手名・チーム名またはダブルス 2 選手)」

※2 選手の名前は言わなくても良い



2022) **アドバンテージ、(選手名・チーム名)**

ダブルスの場合はサーバー側がアドバンテージを取ったらそのサーバーの名前を、レシーバー側が取ったらレシーバーする選手の名前をアナウンスする。

9)コードバイオレーション

レフェリーをコートに呼ぶ場合(悪質な違反で失格に関わるレフェリー判断が必要な可能性がある場合など)

2021)「ただ今レフェリーを呼んでいます」

「コードバイオレーション、身体に対する危害、デフォルト、A 選手(違反者)、ゲームセットアンド
マッチ B(勝者)

↓

2022)「ただ今レフェリーを呼んでいます」

「コードバイオレーション、身体に対する危害、デフォルト、A 選手(違反者)」「A 選手失格の為、
勝者 B、スコア、デフォルト」

11)試合のコール

タッチのコールをするときの判定基準

2021) プレー中にプレーヤーがネットに触れた場合、またはプレー中のボールがプレーヤーに触れた場合、またはプレーヤーが対戦相手のコートに触れた場合にコールする。

プレーヤーとはプレーヤーが身につけている物および持っている物を含む。ただし手に持ったラケットがプレー中のボールに当たった場合を除く。

※赤い下線の部分がなくなった

↓

2022) プレー中にプレーヤーがネットに触れた場合、またはプレー中のボールがプレーヤーに触れた場合、またはプレーヤーが対戦相手のコートに触れた場合にコールする。

プレーヤーとはプレーヤーが身につけている物および持っている物を含む。

* 上記の他に変更の部分が有りましたが、それらはルール上あまり関係ないと思われたので省きました。因みに下記に記します。

P69「ドローの構成」、P71「運営委員会」、P72「スーパーバイザーおよびレフェリーの任務」、P92「ドント方式」、P95「JTA ジュニアランキング対象大会管理細則」、P99「JTA ジュニアランキングシード選手の対象大会」、P100、P107、P108、P110「日本ベテラン」、P121「JTA 公式トーナメント競技規則」、P123、P126、P167「JTA 一般ランキング規則」、P170、P172「ベテラン JOP ランキング細則」、P173、P201「スーパーバイザーおよびレフェリー」、P201

コンプライアンスについて

●コンプライアンス

- *法令遵守と訳されるが、一般的に次のルールの遵守が求められている
 - ・法令(国が定める法律や政令、都道府県の条例など)
 - ・スポーツ団体が定める定款や規程
 - ・スポーツ固有のルール(競技ルール・フェアプレイ精神・スポーツマンシップなど)
 - ・倫理・モラル
- *社会的に認識されているルールの遵守と理解するのがより適切
 - ・スポーツ団体も社会の一員であり、ルールを守って人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献すべきという考え方(スポーツの社会的責任)

●コンプライアンス違反(不祥事)

- *スポーツ団体に生じる典型的なルール違反
 - ・暴力・セクハラ・パワハラ
 - ・金銭問題(不正経理・助成金の不正受給等)
 - ・ドーピング(違法薬物の使用を含む)
 - ・倫理・モラル違反(コロナ禍の自粛ルール違反・SNSでの不適切発言・不倫等)
 - ・交通違反(飲酒・無免許・人身事故等)
 - ・反社会勢力との交流
 - ・その他ルール違反(代表選考問題等)

●暴力・ハラスメント

- *人権を侵害する違法な行為である
 - ・刑事上(暴行・傷害・脅迫・強要など)も民事上も違法な行為
 - ・スポーツ界は、暴力・ハラスメントを禁止している
「スポーツ界における暴力根絶宣言」(2013)
- *それでも繰り返される暴力・ハラスメント
 - ・「指導方法がわからず型」「感情コントロールできず型」への対応
 - ・指導者だけでなく、アスリート・その保護者・支援者を含めた意識改革の必要性
- ・Human Rights Watch「数え切れないほど叩かれて」(2020)
数えきれないほど叩かれました。……集合の際に呼ばれて、みんなの目の前で顔を。血が出てたんですけど、監督が殴るのは止まらなかったですね。ちょっと鼻血が、と言ったんですけど止まらなかったです。 —ダイキ・Aさん(23歳 福岡県)

●暴力・ハラスメント根絶に向けた取り組み

1. 暴力は許さないとの競技団体としての宣言
⇒ 倫理規程・懲戒規程を作成し公表する
2. 暴力を許さないとの競技団体としての毅然とした行動
⇒ 不祥事が生じた場合、規程に沿って適切な処分を行う
3. 暴力に頼ろうとする指導者等への教育
⇒ 定期的に研修を実施する
4. 隠蔽を許さない対応
⇒ 不祥事に関する報告の義務化・報告遅れに対する制裁

●ルールに基づく適切な懲戒処分の必要性

*スポーツ仲裁においてスポーツ団体の懲戒処分が覆される事案多数

●ドーピング

*なぜドーピングが禁止されるか？

- ・スポーツの価値を害する
フェアプレー(競技の公正)・競技者の健康・遵法の姿勢・青少年への悪影響など

●アスリートに課される厳しい義務と制裁

- ① 自ら摂取するものについて責任を負う
- ② 医師の選定及び医師に禁止物質を投与しないように伝達すべき責任を負う
・治療のために禁止物質を含む薬を服用する必要がある場合、TUE(治療使用特例)を事前に得る
- ③ 自己の飲食物への接触を許している人の行為についても責任を負う
・ドーピング検査で陽性になった場合、原則 4 年間の資格停止処分

●試合中、選手が足の痙攣を起こした。手当の為に治療薬としてよく使われる漢方薬の 68 番(芍薬甘草湯)等の薬を選手に飲ませる行為はしてはいけない
なぜなら、ドーピングの問題に触れることが考えられる場合や、選手の身体の問題(薬に対するアレルギーがある等)がある場合があり責任の問題が発生する
但し、選手が自ら持参していたものを飲むことはできる
この場合、選手自らの自己責任で薬等を使用し違反が判明した場合は自己の責任となる

●困った時は、JTA コンプライアンス通報相談窓口へ連絡することができる

●JTA ホームページ → 情報 → インテグリティ関連

<一般相談窓口> madoguchi@jta-tennis.or.jp

<選手相談窓口> desuku@jta-tennis.or.jp

2022 年(令和 4 年) 5 月

編集 : 長崎県テニス協会 審判委員会

長崎市テニス協会 審判委員会
